



# DAIKI KOGYO ENGINEERING SYSTEM TECHNICAL REPORT

# DAIKI KOGYO ENGINEERING SYSTEM TECHNICAL REPORT

## 使用法

- 1. 下地処理**
  - コンクリート・モルタル等のU・Vカット目地部の研り粉、レイトンス、ゴミ、苔は十分に除去します。
  - 金属目地部は、油脂分・塗料・錆・離型剤を完全に取り去ります。  
下地が湿潤面の場合は、十分に乾燥させてください。
- 2. バックアップ材**
  - 可動目地の場合、三面接着をさせるためにバックアップ材を挿入します。
- 3. プライマーの塗付**
  - 下地を十分に乾燥させてから、ハケでプライマーをたっぷり塗付します。シーリング材の充てんは、プライマーが十分に乾燥してから行ってください。
- 4. マスキングテープ養生**
- 5. 混合**
  - 基剤と硬化剤を標準配合比(主1:硬3)に従い十分混合攪拌します。
  - 基剤の上フタを缶切りで開け、全量を硬化剤に入れます。基剤缶の内側周囲と底部部に付着している基剤は、パチペラで十分とり出して硬化剤容器へ入れます。
  - 混合はミキスターないしハンドミキサーで完全に行います。とくに缶底部部は念入りに行います。
  - 混合良否の判定は、混合物を白い紙かガラス板の上に薄くのばし、シマ目の有無で判断します。
  - 混合物の残りを新規配合へ添加して使用することは絶対やめてください。
  - 混合比1:3が狂いますと硬化物性の低下につながるため、配合割合は厳守します。  
また、気泡の混入は硬化物の耐久性に影響しますから十分注意します。
- 6. 充てん**
  - ゴム手袋をはめヘラで十分混合された配合物を缶から取り出します。
  - 100mm以上の太目地へは金ペラで押込むようにして圧着充てんします。  
細目地へはコーキングガンで打込みます。
  - うち終ったシーリング材の上をヘラ・ナイフでヘラ押えを行い表面仕上げを行います。  
太目地には、ゴム手袋に多少溶剤をつけて表面仕上げを行います。
- 7. 後処理**
  - 充てん完了後マスキングテープは除去し、周辺に付着したシーリング材は硬化前に溶剤で除去します。

## 注意事項

1. 混合に際して、基剤を金ペラなどで「必ず全量を良くかき出し」残滓がないようにして硬化剤に混入してください。基剤の混入量が少ないと、完全に硬化しないことがあります。(基剤のとり出しには缶の底部を缶切りなどで開けると良くかき取りやすくなります。)混合攪拌は十分にを行い、特に缶の周辺と底部の角に注意してください。
2. 可使用時間は90分/20℃ゆえ、可使用時間内に使いきる量を混合してください。  
可使用時間は低温になると長くなり、高温になると短くなります。
3. 「ハイスパンコークL」の基剤は空気に触れると、空気中の水分と反応して硬化しますから、完全に使い切るようにしてください。1度開封して残った基剤は使えません。
4. 基剤には微量のイソシアネート基を含有しており、人によっては皮膚に付着すると炎症を起こす事がありますので、作業時は保護眼鏡、保護手袋など適性な保護具を着用してください。もし過って皮膚に付着したときは、石けんを使用し水で洗い流してください。
5. 使用工具は速やかに溶剤(トルエン、キシレンなど)で洗浄してください。
6. 日光にさらされる部位に使用后、色の多少の変化があります。

基材:火気厳禁第四類第四石油類危険等級Ⅲ

※本カタログに記載の仕様および外観は改良のため、お客さまに予告無く変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。  
 ※本カタログに記載のデータや各種事項は当社の信頼する代表的な実験値や調査によるもので、保証値ではありません。  
 ※ご使用に当たっては、必ず事前に、本製品がお客さまの使用目的・用途・条件に適合するか否かを、お客さまご自身で責任を持ってご判断の上、ご使用下さい。  
 ※売主および製造者の責任は、不良が証明された場合の製品の交換であり、付帯する事項すべてを保証するものではありません。

セメダイン株式会社

ダイキ工業株式会社

北九州市小倉北区赤坂5丁目6番64号  
TEL(093)541-6081 FAX(093)541-6516

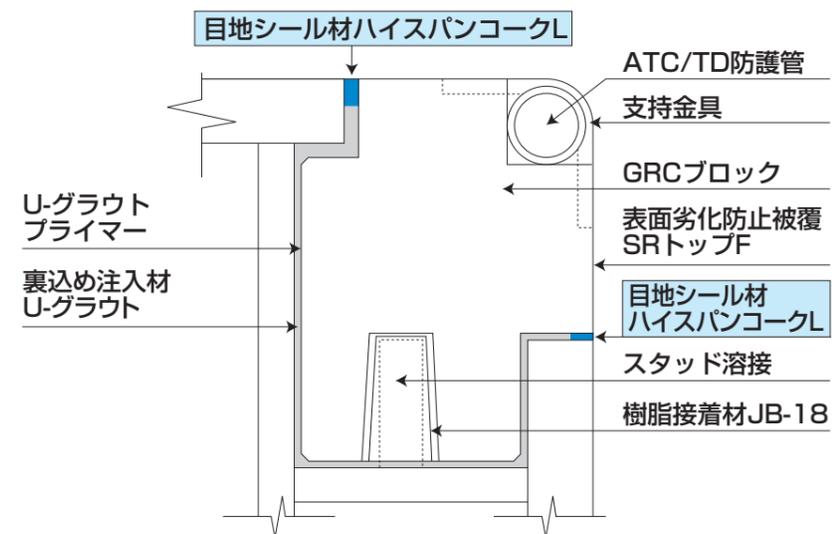
## KTMモノレール工法専用高弾性ゴム状目地材

# 目地シール材

目地シール材はポリウレタン樹脂をベースとした無溶剤・2成分形の土木用弾性シーリング材です。硬化目地は、抜群の接着性と水密性・気密性を発揮し、ずれせん断など軀体の複雑な動きを吸収して、構造物の耐久性向上に役立ちます。耐水性、耐背水圧性にもすぐれております。高度の耐久性の要求されるモノレール鋼軌道桁/GRCブロック目地シール材として最適です。

## KTMモノレール工法とは

KTMモノレール工法は、GRCのもつ優れた性能を生かした工法で、鋼軌道桁のたわみに追随し、ATC/TDループ防護管を固定する工法です。



# DAIKI KOGYO ENGINEERING SYSTEM TECHNICAL REPORT

# DAIKI KOGYO ENGINEERING SYSTEM TECHNICAL REPORT

## 用途

土木 — ずれせん断応力・伸縮可動の比較的かかる目地  
KTM工法目地シール材ハイスパンコークル

### ●水路

2次製品	ボックスカルバート(下水道・共同溝・管類・鉄筋コンクリート管・ヒューム管・推進管・卵型管・透水管・溜枳箱型ヒューム管・システムマンホール)
現場打設	RC打設の打継・誘発目地

- 水 槽・池……RC・PC防火水槽、調整池、貯水槽、用水池、現場打設の打継・誘発目地
- 電 路……ケーブルボックス、ハンドホール、ケーブルトラフ、プレハブマンホール
- 陸 路……鉄道・電力スチールセグメント、ボックスカルバート(地下歩道)、踏切、歩道目地(石・タイル・カラーセメント板)、歩道橋タイル目地、隧道・地下構築物・道路側壁の現場打設の打継・誘発目地、広場タイル目地
- 護岸・土止め……鉄・コンクリート矢板・L型ヨウ壁・連結ブロック  
防潮堤の現場打設の打継・誘発目地

## 性状

項目	基 剤	硬化剤	混合液
外 観	淡黄色透明液体	グレー色ペースト状	グレー色ペースト状
粘 度(Pa・s)※	25±10	19,000±500	6,000±1,200
比 重(20/20℃)	1.05±0.05	1.45±0.1	—
混 合 比(重量比)	基剤：硬化剤=1：3		
可 使 時 間	1.5時間/20℃		
タ ッ ク フ リ ー 時 間	2時間/20℃		
貯 蔵 安 定 性	6ヵ月		
備考	※基剤 BM型4号ローター/30rpm/25℃ ※硬化剤、混合液 BS型7号ローター/5rpm、2min/20℃		

項目	結 果	備 考
スランブ (20℃)	0.0	30×20×100mm目地使用
mm (50℃)	0.0	
汚 染 性	なし	
吸 水 率(%)	0.05	ASA-A1611
圧 縮 復 元 率(%)	100	JIS K 6301
硬 度(Hs)	40	JIS K 6301

## 技術データ

### 1. 一般性能

項目	結 果	備 考
スランブ (20℃)	0.0	30×20×100mm目地使用
mm (50℃)	0.0	
汚 染 性	なし	
吸 水 率(%)	0.05	ASA-A1611
圧 縮 復 元 率(%)	100	JIS K 6301
硬 度(Hs)	40	JIS K 6301

### 2. 引張り接着性(標準養生後/20℃)

項 目	単 位	結 果	備 考
50 % 引 張 応 力	(N/mm <sup>2</sup> )	0.51	JIS A 5758 H型試片による測定/ スピード50mm/分
150 % 引 張 応 力	(N/mm <sup>2</sup> )	0.70	
400 % 引 張 応 力	(N/mm <sup>2</sup> )	1.10	
最 大 引 張 応 力	(N/mm <sup>2</sup> )	1.39	
最 大 荷 重 時 の 伸 び	(%)	476	

H型—被着体アルミ板、プライマーUP-2、破断材破。

項 目	単 位	結 果	備 考
50 % 引 張 応 力	(N/mm <sup>2</sup> )	0.52	ダンベル3号試片による 測定/ スピード500mm/分
150 % 引 張 応 力	(N/mm <sup>2</sup> )	0.78	
400 % 引 張 応 力	(N/mm <sup>2</sup> )	1.18	
最 大 引 張 応 力	(N/mm <sup>2</sup> )	1.65	
最 大 荷 重 時 の 伸 び	(%)	720	

### 3. 各種条件下における引張接着性 — JIS A5758H型試片による —

条件	項目	50%引張応力 (N/mm <sup>2</sup> )	150%引張応力 (N/mm <sup>2</sup> )	400%引張応力 (N/mm <sup>2</sup> )	最大引張応力 (N/mm <sup>2</sup> )	最大荷重時の伸び (%)	硬度(Hs)	破壊状態
80℃加熱14日後		0.60	0.79	1.10	1.47	528	43	凝集破壊
-10℃低温14日後		0.66	0.86	1.20	2.50	720	50	
20℃水中浸漬14日後		0.33	0.41	0.56	1.75	860	35	
20℃水中浸漬28日後		0.30	0.39	0.54	1.68	890	35	

### 4. 水密性能

水 圧	加 圧 時 間	破 壊 ・ 漏 水
2MPa	30分間	異常なし
3MPa	30分間	異常なし
4MPa	30分間	異常なし
5MPa	30分間	異常なし

プライマーMP2000使用、10.4cmφのニップル中に試料を50mm厚に充てんし加圧測定。  
試験片養生7日間/20℃

### 5. 耐候性試験

条件	項目	50%引張応力 (N/mm <sup>2</sup> )	150%引張応力 (N/mm <sup>2</sup> )	最大引張応力 (N/mm <sup>2</sup> )	最大荷重時の伸び (%)
標準養生(初期)		0.52	0.78	1.65	720
1000時間照射後		0.68	0.96	1.60	680

①ウェザーメーターによる促進暴露試験

②照射時間1000時間 ブラックパネル温度/63±3℃  
スプレーサイクル/120分毎に18分間  
試験片 3号ダンベル/JIS K 6301